

高齢者施設における認知・言語面の包括的評価法の開発

佐藤順子^{*,1)}、石津希代子¹⁾、中村哲也¹⁾

1) 聖隷クリストファー大学

【はじめに】

高齢者施設の入所者に対して、認知症のスクリーニング検査の HDS-R や MMSE を実施している施設は多くあるが、その他の認知機能を評価している施設は少ない。認知症コミュニケーションスクリーニング検査では、認知機能のみでなく、聴力も検査項目に加え、総合的なコミュニケーション能力を簡便に検査することができる。しかしながら、健常高齢者には検査の内容が容易で天井効果となる。そこで、健常高齢者を対象に既存の神経心理検査、聴力検査、構音検査を実施し、神経心理検査の結果について検討を行なった。その結果をもとに臨床現場や介護現場においての活用性の検討を行った。

【方法】

対象：健常高齢者 21 名（男性 8 名・女性 13 名）＊平均年齢 75.7±4.4 歳

神経心理検査：① Mini Mental State Examination (MMSE)

② Instruction manual of Japanese version of Montreal Cognitive Assessment (MoCA-J)

③ Wechler Memory Scale-Revised 論理的記憶 I・II (WMS-R I・II)

④ Frontal Assessment Battery (FAB)

⑤ Trail Making Test Part B (TMT-B)

【結果】

■ MoCA-J の得点をみると、健常群は全ての下位項目において高得点であった。健常群と MCI 群では、言語(復唱と語の流暢性)が 5%水準、遅延再生は 1%水準で有意差があった。

■ 健常群は全ての神経心理検査で高得点であった。

■ MCI 群は健常群に比べ MMSE、WMS-R の論理的記憶 I・II にて 5%水準で有意な得点の低下があった。

【考察】

■ MMSE と MoCA-J の相関が高いことは先行研究(稲垣ら, 2012、追分ら, 2013)と同様の結果であった。自立高齢者は、MMSE では認知症と診断されなくても、MoCA-J では軽度認知障害が認められる対象者もいた。健常高齢者は、MMSE だけでなく MoCA-J の実施が不可欠であると思われる。

■ MoCA-J と WMS-R の論理的記憶 I・II の間で高い相関を認めた。軽度認知障害の診断基準(朝田, 2009)には「記憶検査で平均値の 1.5 SD 以下」とある。MCI と診断するためには WMS-R の論理的記憶などの標準化された検査の実施が不可欠であると思われる。

■ 語の復唱は MMSE では 5 文節だが、MoCA-J は 10 文節と長く、文法構造が複雑な文(例：太郎が今日手伝うことしか知りません)であるため、聴覚的な把持力や注意力も必要となると考える。これらの能力は、記憶にも必要である為、難易度の高い復唱で成績が低下したと思われる。

■ 語の流暢性は、「か」で始まる単語を列挙する音韻性課題である。アルツハイマー型認知症では、初期から語健忘の症状が出現することと関係があると思われる。

■ 症例数を増やし経時的に検査を実施する必要がある。

倫理審査	■承認番号(18038) □該当しない		
利益相反	■なし □あり()		
発表状況	種別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他()	
	年月日	2019年 11月	日(□確定 ■予定)